



# 棚田ライタース

全国棚田(千枚田)連絡協議会

第57号 2011.3.25  
(年3回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会  
編集／ふるきゃらネットワーク  
〒184-0004 東京都小金井市本町6-5-3チーム石塚内  
TEL:042-386-8355 /FAX:042-385-1180  
<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>



特集

# 棚田保全、

「後継者がいない」「高齢化で……」。そんな声が全国の中山間地域から聞こえてくる。全国各地の棚田地域ではどうしているのか? 後継者問題をどう考えてどうとらえればいいのか、現場の声を集めた。

# 後継者問題を乗り越える

山下 惣一（農民作家）

## 後継者問題つて何だ?

私たちの世代は農業後継者を失った。引き替えに得たのは“自由な人生”である。

過疎、高齢化、限界集落とおぞましい呼称が使われ、現代の姥捨山を予想

して山村集落を取材すると高齢者が元気で、しかもいきいきとしている、これはなぜだ? と都会のジャーナリストやライターたちが首をかしげる。まるでわかつちやいない。

おそらく日本の農村の長い歴史の中

に子がなく、父は12歳で本家筋から潰れかかった家の再興のために養子として派遣されてきた。そのため「オレはこの家を興しにきた」という使命感が異常に強く、そのことに人生をささげるような生涯を送った。父がもつとも怖れたのが「家を潰す」ことだった。

「どうすれば家が潰れるのか」簡単なことだ。潰れた家を見ればわかる。父が到達した結論が教育だった。「教育は家をつぶし村を滅ぼす」これが父

やました・そういち

1936年、佐賀県唐津市生まれ。農業のかたわら創作活動を続ける。日本農民文学会員。アジア農村交流センター代表。1969年『海鳴り』で第13回日本農民文学賞、1979年『減反神社』で第27回地上文学賞、第62回西日本文化賞受賞。

著書に『身土不二の研究』(1998年 創森社)『農業に勝ち負けはいらない』(2007年 家の光協会)『惣一じいちゃんの知っているかい? 農業のこと』(2009年 家の光協会)ほか多数。

農業に  
勝ち負けは  
いらない!  
国民皆農  
のすすめ  
山下惣一

の信念となつた。

そのため私は高校進学を許してもらひえず、父と衝突して2度家出した。結果、2回とも失敗してつれ戻され、それから仕方なく希望に燃えて農業をやつてきた。

私は村と家がいやでたまらなかつた。だから同じ思いをわが子にさせようとは考えなかつた。1回きりの人生、自由に生きろ！

農業と家とどちらが大切かといえば家だ。家と人間とどちらが大切かといえば人間だ。私はそう考えてきた。ま、戦後民主主義教育の悪しき影響かもしれない。

昭和37年生まれの長男は妹2人の一人息子。で「家を継げ」とはいったこの結果、私がやつてきた温州ミカンを拡大することに決め1.8haまで増やした。そして食い詰めた。オレンジ・果汁の自由化が始まることだ。「百姓はいいもんだな」と今年金婚式を迎えた女房と語り合つてゐる。

さて、そこでかならず出てくるのが後継者問題である。そもそも農業後継者問題というのは誰にとつての問題な

とはいが、長男の宿命感みたいなものはあつて自分から農業高校を志望した。

ところが中学3年生の時の担任の男教師が農業高校を「こやし学校」工業高校を「油さし学校」と呼び、テストの成績が悪いと、「お前、やつぱこや学校か」と馬鹿にすると息子がいい、普通高校へ転校替えた。教師に悪気があつたとは思はないが、この国ではこのような教育をやつてきたのである。

息子は県立の農業者大学校をへて2年間アメリカに農業研修に行き、帰ってきて農業を継いだ。

これがもう大変。農業後継者のいな一方がどれだけ気が楽か。親子で協議された2枚の畠5反歩にミカンを新植した。補助金を得た後では新植できないので、先に植えておいて後から伐採を申請したのである。

私と女房のルンルン人生が始まつたのはそれからである。息子が農業で食つていけるのか、もつと規模拡大すべきか、近代化資金は払えるのかなど心配がなくなつて、まるで夜が明けたようだつた。ともかく自分の心配さえしておればよいのである。

女房は農産加工をはじめ、ままごと遊びの延長のようにならうにやつてゐる。私は7反の田と5反のミカン畠、巨峰1反、梅、レモン、野菜畠などを無理をしないことをモットーにカネを追求しない農業の楽しさに浸つてゐるところだ。「百姓はいいもんだな」と今年金婚式を迎えた女房と語り合つてゐる。

彼等が「跡継ぎ」になる確率は社会情勢次第だろう。これからかなり増えてくるのではないか。もちろん昭和30年代の農村に戻ることはないが「百年つづく限界集落」はあり得る。ま、元氣でいくべ！

のか？

農業後継者を失うことによつて自由を得た身にしてみれば「そんなこと知るか！」である。わが息子についていえば、都会が大不況になれば帰つてくれいいわけだし、そうでなければ定年まで勤めて年金プラス生甲斐農業をやればよい。一族、一家の究極の安全装置である田畠だけは守つておく。私は八十八歳の米寿まで現役でやるつもりにしている。

まあ、そんな次第で、いま現在同居中の農業後継者、すなわち「跡継ぎ」のいない農家は多い。しかし、家の「跡取り」はどの農家にもおり、農業収入だけではやつていけないから家を出しているだけの話である。国勢調査にしろ農林業センサスにしろ、同居中の世帯員調査であるため、このいわば地下茎の部分が見えてこないのだ。

統計数字だけ見ていると10年後には消滅する家がほとんどだらう。しかし、どつこいそはいかないのだ。親が死ねば町にいる子のいずれかが家と田畠と親の貯金通帳を取り戻つてくる。これがすなわち「跡取り」である。「跡継ぎ」はいないが「跡取り」はい



992年、  
直前の1

992年、  
直前の1

992年、  
直前の1

# 地域外の人で 「守る会」をつくる

福岡県うきは市

「耕作がもうできない！」

「どうしてもう棚田の耕作ができない。」

平成17年冬、福岡県うきは市役所にある農家が駆け込んできた。それは、つづら棚田農家5戸中の1戸だった。日

本の棚田百選に認定された平成11年、こは10戸で約7haを耕していた。かつては林業も盛んで、昭和20年代は約50戸あつたところである。だが、ついに平成17年、5戸となつたうちの1戸が高齢に体調不良も重なつて耕作が困難となり、ほかの4戸ももはや請け負う力がなく、市

# 窮地のつづら棚田を救つた「つづら棚田を守る会」

（相談にきた次第だつた。

当時の市の担当者は、つづら区だけで

はもはや解決できないと、近隣の9つの区をあわせた広域の、新川地区、そして

同じ谷にある田篭地区で、地域の農業リーダーたちに呼びかけ、話し合いの場を持った。

「百選にもなつてゐるし、守つていかなければならない」。だれもがそう思つていた。協議が重ねられた結果、新川地区的有志で「つづら棚田を守る会」（以下「守る会」）を発足。市は、旧浮羽町と旧吉井町が合併した平成17年、10年間限定の「山村地域振興基金」を創設していた。ここから助成を出せると市も発足に協力した。

## 活動の広がりを見せる 「つづら棚田を守る会」

平成18年春、0.6haでスタート。当初、会員は16名。兼業農家ばかりである。平成23年を迎えた現在、会員は40名、受託面積は1haとなつた。「守る会」がつくつたお米は、道の駅で「つづら棚田米」として販売される。毎年完売で、昨年は80万円ほどの収益となつた。

活動を継続するため、手当は1時間1000円支払われる。そのほか機械整備や米づくりに必要な経費などで年支出は130万円ほどだ。米の売り上げではまかないきれず、山村地域振興基金内に

用意してある「つづら棚田管理料」で力

バーしてもらう仕組みだ。

市農林・観光課の担当者中山和成さんは話す。

「何よりみんなで、棚田を守つていこうという思いが強いですね。ボランティアだとなかなか続きませんから、最低限度の補償です。

会ができたことで耕作放棄されずにすみ、いまではつづら区だけでなく、同じ新川地区の棚田でも『手を貸してほしい』という話が出ていて、新川地区全体の棚田を守る会になつてゐるんです。

実際の後継者ではありませんが、担い手となつてくれています。会の人も中心は50歳代後半～60歳代。10年後を考えると世代交代をうまくしていかなければいけません」

若手を入れていくことは常に考えている。そんな状況を知つてか、うきは市のJA青年部が果樹栽培農家ながら「米づくりを勉強したい」とつづら棚田で耕作をはじめた。20～30歳代の若者である。「守る会」が指導しながら、若手後継者としても期待されている。

一方、つづら区では、「守る会」のメンバーを集め落の新年会、お月見会、お祭りなど地域のしきり事には誘い、みんなで時を過ごす。「集落を守つてもらつてゐるという思いもあるのだと思います」と中山さんはいう。

最近、つづら棚田農家のなかには平坦地に住まいを移しても、つづら棚田に通

作する人も出ってきた。住む人は確実に減っている。だが、平成7年から続く「棚田inうきは彼岸花めぐり」は、3万人が訪れる市をあげての大イベントだ。また、集落でお世話している棚田オーナー制度も継続中である。

そしていまや、「守る会」やJA青年部があげをきり、樋を通して、米をつくる。訪れる人は減るどころかますます増えている。人が訪れる限り、棚田は続く。

地に住まいを移しても、つづら棚田に通作する人も出ってきた。住む人は確実に減っている。だが、平成7年から続く「棚田inうきは彼岸花めぐり」は、3万人が訪れる市をあげての大イベントだ。また、集落でお世話している棚田オーナー制度も継続中である。

つづら棚田で活動中の「つづら棚田を守る会」メンバー

オーナーから  
「ターン者になって」

高知県梼原町

# 保存会の会長になつた「ターン者」を生んだ町

高知県梼原町といえば平成4年、日本初の千枚田オーナー制度をたつた11戸の神在居集落で立ち上げ、注目を浴びた町である。この20年の歩みを振り返るとき、抜きにしては語れない人物がいる。愛媛県松山市に広告制作会社を持つコピーライター、田村俊夫さん50歳。

だつたが、新聞で千枚田オーナー募集を見て第1期のオーナーとなり、その後、家族で定住した「ターン者」だ。さらに平成22年4月、地元棚田保存会「千枚田ふるさと会」の会長に就任。こんな例は、まだほかでは耳にしたことがない。

オーナーから定住者へ、そして会長に

つコピーライター、田村俊夫さん50歳。

約20年前、耕作放棄地が目立ちはじめるなか、都市との交流の場

に活用しようとスタートした梼原町のオーナー制度。

当時は、後継者問題は差し迫つた問題ではなかつた。ちなみに神在居集落はいまも当時と同じ11戸。1世帯

が地域外に出たというが、田村さん一家が入つたことでプラスマイナス0。そして、世代交代ができたのは3世帯である。

さて、話をさかのぼろう。

オーナー制度開始直後から

梼原への定住を考えはじめた田村さんだが、実現したのは10年後、平成14年だつた。当時、町独自の「若者定住促進事業」があつた。

夫婦に住居を建て低家賃で町に定住する40歳以下の若

提供し、10年後に払い下げ也可能という制度である。この制度で町に建てられた家は10棟以上。田村さんもそんな制度がもう終了するという最後の年、神在居の千枚田のなかに住まいを建てた。

なぜ、梼原町ではオーナーが定住し、しかも保存会の会長になるような経緯を辿れたのか。町環境推進課の川上寿久さんに聞いた。オーナー制度発足当時から、神在居で保全活動に深くかかわつてきた担当者だ。近年10年ぶりに、棚田担当の部署へと戻つてきた。

「『オーナー制度を何のためにやるのか』。それはもうよく議論しました。『1人でも2人でも定住してもらわんとやつても意味ないろう』って行政も一緒になつて地域に入つてきた経緯があります。定住してもらいたいわけですから、オーナーさんと四六時中つるんでいましたね。何かあれば誘い、地域のイベントを手伝つてもらつたり、仕事抜きのつきあいを長年やつきました。定住してからもそうです。声をかけた責任がありますしね」

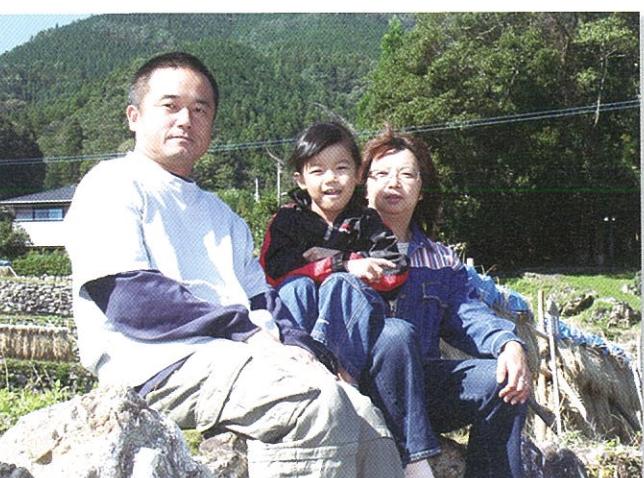
田村さんが定住を検討していた当時、夫妻に子どもはいなかつたが、定住を決めた途端、子どもを授かつた。結婚16年、待ちに待つた子どもだつた。神在居で生まれ育つた少年もこの春、小学校4年生にならうとしている。子どもがいることで地域とつながりが持て、子育てにも熱



田村さん一家が入つたことでプラスマイナス0。そして、世代交代ができたのは3世帯である。



写真上：神在居は、標高600m程のところで、2haの棚田とともにある集落  
写真下：田村俊夫さんご家族。息子もいまでは立派に農作業に参加！



心な田村さんは、町のなかでも存在感を發揮しているのだという。

そして、定住して9年目を迎えるようとしていた平成22年の年明け。前会長から「そろそろ会長交代を」という話が出た。そのときだれもが「若い世代に」と思つた。実際、神在居に住み、オーナー制度の世話人として適任な若手といえば、田村さんだつた。地域のなかにももうすっかり入り込んでいる。会長になるのにだれも抵抗はなかつた。

田村さんだつた。地域のなかにももうすっかり入り込んでいる。会長になるのにだれも抵抗はなかつた。

ければならない。その人手がないのが現実だというのだ。

「集落全体が祭り事をやるのがしんどくなっていますねえ。それがいま悩みますねえ。将来的には応援隊を求める事になるでしょう。これからは知恵の出し合いになりますね。お世話を含めてですが、役場の退職者を狙つてみようかと考えたりしてますねえ」

後継者問題の根本的解決になつていなかつた。オーナー制度をやつて良かつたですか?——ぶしつけながら聞いてみた。

「それはそうですよ。もしかつたら、あのあたりはなくなつたかもしかんですね。考えてみると良きにつけ悪しきにつけ、地域が元気になり続けてこられた。

すごいと思いますよ。20年オーナー制度やつてきて、それが元気の源になつていいと言えまするう」

川上さんの声に揺らぎはなかつた。

いま、神在居集落は高齢化率54・5%。約3900人の町全体では40・5%。若い世代が会長になつたといえ、神在居はオーナー制度を続けて行くにも、非常につらい状況だといふ。10年前はむしろ兼業の人たちが定年になり、手厚い対応ができた。しかし、地域全体が高齢化し弱つてきた。実際に田んぼに出て働く人は指を折つて数えられるほど。この20年、田村さん一家のほかにも神在居へのIターン者は4家族あつたが、それぞれに事情があり、定住し続けるのはむずかしかつた。

「後継者問題の抜本的な解決はむずかしい」と川上さんは言う。

そんななか、オーナー制度は平成23年度に20周年を迎える。方向転換をするなど再検討の時期が来ているといふ。やめることはないだろうといふものの、何をするにしても人が必要で、誰かがやらなければならぬ



集落の清掃活動にも田村さんは親子で参加。左端と左から2番目が田村さん親子



あざでり作業を行なう千枚田オーナー

## 保存会に地域外の人を入れる 三重県熊野市

# 平成21年、地区外の 人を保存会メンバー に迎えた丸山千枚田

丸山地区28世帯41名、高齢化率は75・6%。当然、

子どもはない。最も若い人で50歳代。平成5年には31世帯約60名だつたが、高

齢で亡くなつたり、近隣の新宮市や熊野市内に出ても帰つてこないままだ。だが、丸山千枚田そのものはここ20年で旧紀和町のシンボルとなり、いまや熊野市のシンボルともいえる存在となつた。

丸山千枚田は平成5年、荒廃田を昔のままに復田し、約7haに1340枚もの棚田があるのが特徴だ。平成8年にはじまり16年目を迎えるオーナー制度の人気も衰えることはない。

平成22年度もオーナー128組、サポート制度(トラスト)45口、リピーターは6~7割でつねに新しい人たちが訪れる。だれもが「守つていかなれば」と思いを固める一方で、それを支える地元の足腰が弱つてきた。

### 地区外に応援を求めて

行政は旧紀和町時代から(財)紀和町ふるさと公社を設立し、公社に地権者が千枚田を貸し、丸山千枚田保存会の会員がそこに出向くという仕組みを取つてき。オーナーやサポート制度、また米の収益だけでは作業費や経費をまかないきれない。そこを行政が公社を介し資金投

入してきた。旧紀和町から熊野市になつてもこの支援スタイルは変わらずにきている。

だが、働き手である保存会員の高齢化が進み、バタバタと作業に出られる人が減つていった。平成19年には日々の作業がおぼつかなくなつた。実際に丸山地区で作業に出られるのは、男性では70歳代の2人だけ。平成20年にはオーナーの田植えの予定日までに田んぼの準備ができていないという非常事態に陥つた。公社や行政からも作業に出かけ、なんとか当

日を迎えたのだという。

もはや地区内に人はいらない。しかも、丸山千枚田保存会の規約に「保存会員は丸山地区住民とする」とある。市地域振興課と(財)紀和町ふるさと公社は、丸山地区にアンケートをとり、「地区以外の人々に応援してもらうかどうか」の是非を問うた。

結果、丸山地区住民全員が地区外の人々を保存会に迎えることに賛成だつた。そこから、行政の方で近隣の地区から候補者を選び、ターゲットをしぼつての声かけがはじまつた。公募ではなく、こうしたスタイルの方が丸山地区にはあつてい

た。

「農業経験があつて、丸山の人たちに溶け込めるような人を選

びました」

市地域振興課の北裏和樹さんは実情を話す。

平成21年1月、新たなメンバー20名が決定し、2月には新しい丸山千枚田保存会がスタートを切つた。丸山地区住民41名+新規20名、61名となつた。

「新しいみなさんも60歳以上です。仕事を引退された方などで、すから、後継者問題を解決しているとはいえないかもしませんが、今後、定年後の人たちを呼び込めるような保全活動を進めています」

**新たなメンバーを迎えたこと**



千枚田勉強会のようす



千枚田保存会の中心メンバー

で、地域も変化してきた。オーナー制度を「イベント的なものから体験重視の『農業体験型』に変えた」ことも大きかつた。田植えや稻刈りの受け入れを1週間に増やし、春のあぜ塗り、夏の草取り、虫おくり行事、草刈り、秋の稻刈り、案山子作り、さらには2月、昨年塗つたあぜをきれいに落とすあぜそりに至るまで、年に何度も訪れて作業をしてもらうよう

にした。

その結果、交流が深くなり、丸山の人たちも都市の人慣れしてきたという。イベント的に行つてきたオーナー制度では見られなかつた変化である。「まだまだおもてなしをしなくてはという意識が強いのですが、つながりが生まれています」と北裏さんは言う。

また、北裏さんは月1回の勉強会開催を提案。平成21年4月から、毎月「丸山千枚田勉強会」が開催されている。これは「新会員と丸山の人たちに仲良くなつてもらいたい」という思いからはじまつたが、独自の土産物の検討やオーナー制度の研究、熊野地鶏の飼料米づくりなど多様なテーマでみなが座を交えている。他の棚田地域へも視察へ行つた。他の保存会の意識の高さに刺激を受け、また丸山の良さも再発見し、「われわれもがんばろう」と意欲的になつたという。

「今までみなさん、『来年はできないかも』と発言が後ろ向きだったんですけど、新しい保存会員が入つたことで、みんなが前向きになりました」

大きな変化である。



夏休みに開催される案山子作り体験

# 新潟県柏崎市

## 新潟県柏崎市

# 門出・田代集落60戸で「農業組合」を立ち上げ

かどいで  
たしろ



### 【新潟県柏崎市高柳町】

新潟県柏崎市高柳町は新潟県の南西部に位置し、日本海沿いの柏崎市中心街から南へ（山の中へ）20数kmの鯖石川沿いの急峻な土地に19の集落が散在している地域です。

面積64.63km<sup>2</sup>のうち、農用地は8%の530ha、日本海側特有の重く沢山降る雪に産業や生活が苦しめられています。昭和30年に1万人を超えていた人口は、平成16年には2,300人と激減し、平成17年柏崎市に吸収合併しました。

農業（米）以外に産業の無い高柳地域は過疎化・高齢化の真っ最中で、平成22年3月末での人口は1,941人、高齢化率は50.2%です。

## 「農業組合」をはじめる

新潟県柏崎市

地域づくりに  
先駆的な門出・  
田代集落

門出及び田代集落は、高柳町の南部にあり隣接していることから中学校が同一校区であったり、直接支払制度を第1期から同一協定で実施したりと以前から様々な活動を共同して行つてきました集落同

士です。両集落の戸数は147戸、人口は342人、内農家は90戸、耕地面積は43.5ha、平均耕作面積は0.48ha。

小規模農家の多い両集落ですが、高柳地域にあっては先進的な地区であり、現在の「じょんのび村」をはじめとする交流観光施設の整備や、都市との交流による地域活性化のきっかけをし、先導してきた地区です。「門出かやぶきの里」は年間1300人程度の利用客ですが山里の魅力を味わえる施設として喜んでいただいております。

### 「農業組合」設立

#### きっかけとなつた棚田愛農会

過疎化・高齢化の進む他の地域同様に、門出・田代地区も年々耕作放棄が進み、「日本の棚田百選」に選ばれた「大開の棚田」の中にも放棄地が目立つようになってきました。

そんな中、農協職員のS・Kさんの大聲での呼びかけに応えた非農家も含めた20数名の若者(?)が、平成16年から重機を使ってヨシや灌木の生えた田んぼをひっくり返し復田を始めたのです。このグループが組織化のベースになっています。

#### 豊かな村づくり推進事業

#### 「農業組合」を設立

柏崎市高柳町事務所

地域振興課 産業振興係長 中村 圭希

な村づくり推進事業」の指定を受け、地域の資源を生かした活性化方策を検討・実施する機会を得ました。

集落では両町内会長を中心として「門出・田代地域活性化戦略推進協議会」を組織し、「農業部会」で生産組織育成による農地保全の企画・実践、「市場開拓部会」で門出の地名を生かした商品開発、「起業・交流部会」ではかやぶきの里を拠点とした交流の拡大を役割分担することとしました。

「農業部会」では1年目に作業組織の育成と土地利用調整のため集落営農検討委員会の設置を決め、2年目には集落営農の素案を作成し、集落内への提案・合意形成を図りました。3年目の平成21年、地区内農家60戸の賛同・出資を得て「門出・田代営農組合」を設立し、秋作業から機械の共同利用・農作業の共同化を開始しました。

#### 門出・田代営農組合の実績

#### そして、地域の課題

平成22年の作業及び機械利用の実績は刈取りで0.8ha、実働は前述のパワフルな棚田愛農会です。地区全体の約2割を実施するなど良いすべり出しと評価し、引き受け手が明確になつたことで高齢農家がひとまず安心できましたが、今後更に農作業に欠かせないトラクター・コンバイン・田植機をセットで整備することができました（3／4補助）。



こうして地区内の意識の醸成、設立に向けての検討、農家の結集等順調にステップを踏み実現することができた背景には、もうひとつありがたい事業がありました。

#### 利用して

また、戦略会議で検討・試行した山菜の生産や、門出・大開という地名を生かしたお祝い棚田オーナー制度、かやぶきの里を訪れる人の満足度向上など一体となつた活動の推進など課題も多く、農を中心無理をせず、門出・田代らしさを發揮できる活動を継続していく必要があります。

#### 「大開の棚田」

面積約2.7ha、昭和56年、500枚の圃場を36枚に整備したが、全体の傾斜がきつい為、段差が大きく道路を直角に交差できず斜めにしたため圃場は菱形となった。また、湧水や深い部分も多くわめて難儀をする圃場。平成11年7月 高柳町内2ヶ所と共に日本の棚田百選に選定された。

岐阜県恵那市

# 【いま、後継者問題はない】――NPO恵那市坂折棚田保存会

さかおり

## 会員増強、NPO化で 活動を活性化

坂折棚田保存会は平成13年、日本の棚田百選認定を機に坂折棚田農家35戸が集まって発足した。だが、メンバーの高齢化や耕作放棄地の増加で保全活動がむずかしくなり、平成18年、恵那市民から賛同する人たちを募った。これが一つの転機となつた。

6月中旬に行われる田の神祭り

「保存会もNPOとなり、組織的に行うことでも活動も継続しますし、活動がまちづくりそのものになってきています。NPOにしたのは経済的なことも大きいですよ。いま、国・県・市から補助金を総額で250万円／年もらっています。補助金といつても自由に使えるお金ではなく、たとえば、石積みの修復にかかる重機の借り上げ料の補助などです」

田口さん自身、坂折の棚田耕作者ではない。市街地に住みながらも、坂折地区にある中野方町（旧町村エリア、約500戸）に勤めていた関係もあり、いまの立場となつた。いま、保存会の中心メンバーは地元の熱意の高い人たちに加え、ITアーチャー者や地域外の人たちである。

もちろん、坂折の耕作者たちも保存会の活動頼みばかりではない。中山間地域等直接支払制度を機に、10数人のメンバーが集落営農組織を結成している。

## 後継者が戻ってきたくなる 活気ある地域づくりを！

田口さんは言う。

「いまのところ、うちは後継者問題はない、と言えますね。ただ『後継者』というのをどう考えるか。私たちが『後継

会員は100名を越え、平成21年にはNPO法人を取得したのである。NPO恵那市坂折棚田保存会の理事長、田口譲さんは話す。

「保存会もNPOとなり、組織的に行うことでも活動も継続しますし、活動がまちづくりそのものになってきています。NPOにしたのは経済的なことも大きいですよ。いま、国・県・市から補助金を総額で250万円／年もらっています。補助金といつても自由に使えるお金ではなく、たとえば、石積みの修復にかかる重機の借り上げ料の補助などです」

田口さん自身、坂折の棚田耕作者ではない。市街地に住みながらも、坂折地区にある中野方町（旧町村エリア、約500戸）に勤めていた関係もあり、いまの立場となつた。いま、保存会の中心メンバーは地元の熱意の高い人たちに加え、ITアーチャー者や地域外の人たちである。

もちろん、坂折の耕作者たちも保存会の活動頼みばかりではない。中山間地域等直接支払制度を機に、10数人のメンバーが集落営農組織を結成している。

者』といつているのは、決して若者じやない。60歳以降の定年退職者です。この地域の棚田は昔から兼業で耕されてきた。出て行っていた人たちも、定年後帰ってきて農業に専念するというスタイルです。でも、10年後もこのまま続くかわからない。60代以降が中心の耕作ですから不安要素は多いですね」

坂折棚田は、市の中心部からは車で約20分。棚田面積約14ha。市街地に近いこともあり、兼業が可能である。職人も多く、若いときは住み込みで名古屋などへ出ていても定年後には帰ってくる。だからこそ、保存会は「帰ってきたくなるような地域づくり」を意識して活動を続けてきた。

「地域をきれいにしたり、石積みを直したり、棚田オーナー制度やイベントを開いたり、産直をしたり。先を見越して地域づくりをしています。通信も発行し、都市住民の人に来てもらえる雰囲気を発信しています。都市の人が来てくれる」と『来てくれるから、きれいにしておこう』『これ、つくって買っていいともらおう』『お土産にこれを用意しよう』など、いろんな元気がわいてきます。

イベントなども地域の人にも手伝つてもらいます。そのなかで『うちはええところやなあ』と再認識します。よその人に来てもらえてなかつたら『こんなところで暮らすのは……』となつてしまふ。それが『やっぱり、いいところ』と思え

るか思えないかでは定年後戻るかどうかに大きく影響します」

NPOにすることによって保全活動をより活発化させ、保全の土台が固まつた。将来的な展望も持つことができる。

この力が地域に活力を与え、都市住民や定年後の人たちを呼び戻す大きな影響力となつていている。



オーナー田植え

石積み塾



オーナー田植え

石積み塾

# 「後継者問題」を乗り越える」会員アンケートから現状・意見・提案

## △問題状況△

耕作放棄地の発生／集落営農組織の構成員の高齢化。（新潟県十日町市）

農業者が高齢になり、後継者に任せた住（千葉県鴨川市）ので、農地を荒らしてしまった。

（千葉県鴨川市）

耕作放棄地が年々増え、地元住民だけで棚田の維持管理を行つてしまつことにも限界がきていた。（三重県亀山市）

後継者不足で荒廃地の増加（福岡県うきは市）高齢化が進み、耕作放棄地が増加している。（宮崎県日之影町）

若者の地域外転出（経済的理由・有益な産業がない）により、農業・地域の後継者が減少し地域全体が高齢化し、地域の活動エネルギーが衰退している。

「人」「土地」「マラ」の空洞化（小田切徳美）はかなり進行している。

私の家には田73ha、畑2haがある。現在は私一人で耕作。息子2人は自給自足農を引き継ぐ約束はない。赤字と税金でダメ。（大塚雅敏 静岡県浜松市・個人正会員）

## △問題解決させた事例△

（記事紹介以外）建設業者の農業参入がはじまつた。（新潟県柏崎市）

全面的な解決には至つていいが、多様な主体の参画（ボランティアなど）により、地域と協働で保全活動を行つてている。〈例〉一社一村しづおか運動・企業、大学等との協働／しづおか棚田・里地くらぶ・援農ボランティアとの協働。これら協働を通じた交流に

より、地域への定住（一ターン）に発展することを期待。（静岡県農地保全課）

新城市的四谷の棚田地域（大塚雅敏）

（静岡県農地保全課）

## △中山間地域等直接支払制度との関係△

直払対象地について、共同取組費の活用もあることから、耕作できなくなつた人が出てきた際、集落全体で後継者（担い手）を検討して任せるような集落は第2期対策からあった。第3期対策で〇要件が新設されたことから、多くの集落が耕作放棄地を発生させないようにこの要件に取り組み、集落内外や集落全体で担い手を考えるようになつた。（十日町市）

集落配分のうち、運営の安定化を図るために、當農組織を直接支援している集落がある。／集落内での合意形成が大きず、中山間地域直接支払制度協定面積が大きく減少した集落がある。（柏崎市）

担い手の確保として、認定農業者や新規就農者の育成に取り組む集落はあるが、問題を解決するまでは至つていな（うきは市）い。

## △乗り越えるための意見・提案△

価値観の多様化と情報のグローバル化により、農村側も開かれた地域づくりに挑戦していくなかで農村の問題が都市も含めた国全体の問題であるといふ認識が定着していくのではないか。そうしたなか都市農村交流の活発化で地方への人口移動（僅かだと思うが）が起きることを期待。棚田など農村の貴重な資源の価値（有形・無形の資産価

値）評価について、更なる情報発信の発展することを期待。（静岡県農地保全課）

（静岡県農地保全課）

集落営農の組織化（法人化）の推進。（十日町市）

農業の魅力を広く若者に知つてもらうためのイベントや体験農業を活発に行う。（鴨川市）

農業の魅力を広く若者に知つてもらうためのイベントや体験農業を活発に行う。（鴨川市）

「オーナー制度」や「守る会制度」、「ボランティア」「体験イベント」など実施しているが、後継者問題を解決するというところに結びついてい

ないのが現実。非常に難しい問題。皆さんの意見や提案を参考させていただきたい。（熊野市）

オーナー制度や受託組合の組織等の取り組みはあるが、直接的な解決には至っていない。農業で安定した収入を確保できる方法を確立すれば問題解決につながると考える。後継者不足は全国の農山村が共通して抱える問題であると思う。全国各地の取り組みを紹介してもらい、情報交換できればありがた（うきは市）い。

## △そのほか△

全国の中山間地域はお互いに情報交換をして数々の問題解決に取り組む必要がある。（ライステラスは、組織内はもちろん全国民に対して情報を発信することが必要と考える。（NPO恵那市坂折棚田保存会）

第17回棚田サミットの分科会では後継者問題をテーマに話し合つべき。ぜひ実現してほしい。（大塚雅敏）

国内で生産される農産物の価格がきちんと評価されなくてはならない。／農山村が一旦縮小し消滅する集落があつたとしても食糧危機等で必要とされる時が来れば蘇らざるをえない。無理をして存続させることがよりも閉じることも考える。（「撤退の農村計画」）復活性には地元がます本気になり、他地域するためのエネルギー・資源の温存。

から人を呼び込む手立てを考えてほしい。（大塚雅敏）

農業及び農業から派生する産業を育成し、若者が生活できる収入の確保。

若者を中心とした生産組織の育成と組織を取り巻く高齢者の役割分担に向けた合意形成（集落営農）。



## 徳島県の 現状から

徳島県は園芸産地

、園芸とくに野菜生産（農

邸の農家も散見される。

徳島県農政クラブ会長  
井沢

忠藏（農政研究家・個人贊助会員）

鳴門金時栽培など農業所得が高いと、後継者の充足率が高い

## ■ 第一表・青年(35才以下)農業者実態調査表

地区	合計	男	女	新規学卒	Uターン	新規参入
鳴門・藍住	299	267	32	136	161	2
他の6地区	291	270	21	105	176	10
県合計	590	537	53	241	337	12

(2010年4月1日現在・徳島県農林水産部)

島県の農業は、園芸と共に野菜生産（農業產出額割合35・8%）に特化しており、阪神圏の生鮮食料品供給基地となつてゐる。吉野川下流域北岸の鳴門市と板野郡の一部にまたがる鳴門・藍住地区には、さつまいも（鳴門金時）・大根（裏作）とれんこん（周年栽培）の栽培農家が經營を展開、いずれも高い農業粗収益をあげており、「おいも御殿」といわれる豪

全県的には農業後継者問題は深刻化しており、農家の高齢化も進んでいる（65才以上の農業就業人口は全体の59・4%を占め、全国水準より1.1%高い（2005年農林業センサス）。しかし、鳴門・藍住地区では第一表のとおり後継者の充足率が際立つて高い。

農業所得での自立経営農家が多い  
鳴門・藍住地区は、後継者の充足  
率が非常に高い

鳴門・藍住地区の農業後継者  
(新規就農者) 経営事例

杉本 仁さん (鳴門市大津町徳永) 24才  
就農時期 平成19年3月(県農業大学校卒)  
経営内容 かんしょ(鳴門金時)230a  
大根 (裏作) 50a

J A 大津では管内の新規就農者に祝い  
金を就農後3年間、(毎年5万円、計15  
万円)を贈呈。現在までの支給対象者は  
90名、後継者を勇気づける支援策として  
好評。

農業後継者問題への提言

- 1、後継者が安心して農業経営に取り組めるだけの農業所得の安定化が、後継者確保の第一条件。そのためには国をはじめ地方自治体やJAを中心とする農業団体などからの手厚いこ入れ（制度融資や助成措置）が必要。

2、後継者に対する営農、生活両面の指導や組織化を地方自治体や農業団体が一元的継続的に行い、後継者が孤立化することのないように努めるべきである。



写真：徳島県提供

- 家としての後継者が育つ基盤は少ない  
しかし、それが「多様で小さい農業」  
といふ日本農業そのものであり、  
国土の環境保全、日本文化（農村文化  
が原点）の伝承に大きな役割を果たし  
ている日本型持続的農業（経済に左右  
されない）である。



# Topics

# ③市連携によるアンテナショップへの軌跡

# ～全国棚田サミットがもたらした力～

長崎市水産農林部 部長 溝口 博幸

先般、発行された棚田学会通信（第33号）において、長崎市町上市長が「市町合併で手に入れた魅力的な資源」と題し話されたように、平成17・18年の7月との合併により、長崎市は「新たな宝」を得ることとなりました。その一つが「大中尾棚田」であり、その棚田があつたことによって、全国棚田（千枚田）サミットを長崎で開催することができました。サミット後も毎年「火祭り」を実施していくますが、夕焼けの中で点灯式を行い、揺れる炎に彩られた幻想的な棚田の風景や大中尾公民館での交流会などの記憶が鮮やかに残ります。

九州の北西部に位置し、市の形状は全国的に見ても数少ないです。市域は南北に細長く、南北に走る鉄道沿線の駅を中心に、南北に伸びる幹線道路沿いに開発が進んでいます。また、東西に走る幹線道路沿いにも開発が進んでいます。

時間が過ぎるのは本当に早く感じるもので、初の共同開催（雪仙市・長崎市）となつた平成20年度の「第14回全国棚田（千枚田）サミット」から、もう3回目（春を迎える）としています。開催の折には、多くの方のご協力・ご支援をいただき、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

食の発信、④食育体験の推進を柱に、食を切り口とした様々な事業を進めていますが、この運動の集大成の事業として、平成20年3月から福岡市をターゲットとしたアンテナショップ開設の検討を行いました。この同時に、棚田サミットに向けて、雲仙・長崎両市での実行委員会や事務局会議が開催されていました。これもあり、様々な情報交換を行いましたが、この時に培つた信頼関係がその後につながる大きな力となりました。

このように、全国棚田サミットの開催により地域内の連携がより強まったということもありますが、初の共同開催で、雲仙市とつながったことにより、新たな事業展開へと結びついていきました。

長崎市においては、平成19年からながさきの「食」夢市場運動を展開しており、①地産地消の推進、②販売戦略の策定、③

このサミットを受け入れるに当たり、棚田の見学会について、大中尾棚田保全組合を中心として、地元自治会等との協議が行われました。このことにより、今まで棚田のイベントと言えば、保全組合だけで運営されていたものが、地域全体で取り組む行事として位置付けられるきっかけとなりました。

スとは、長崎弁で「来とらす(来ていらっしゃる)」の意味で、たくさんの方に来ていただき、愛される店になるような願いが込められています。

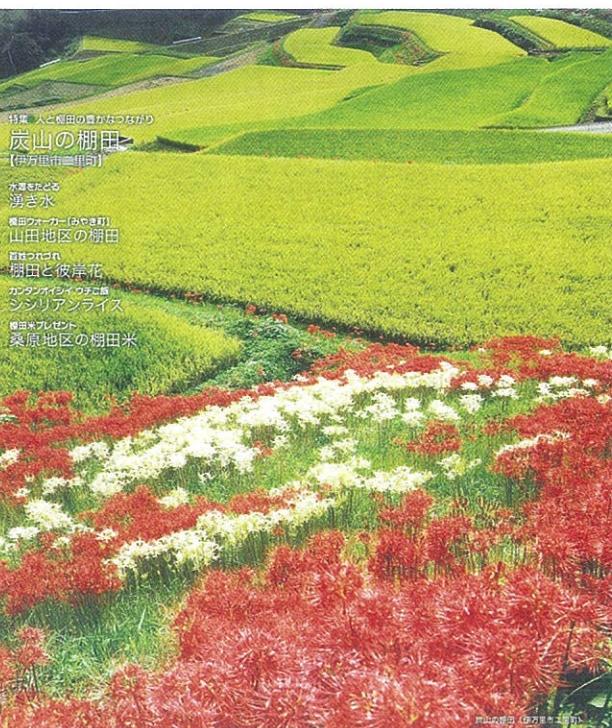
施設は、物産販売だけでなく、飲食部門やツアーデスクもあり、おかげさまで、平成22年10月2日のオープンから、順調に売り上げを伸ばしており、来店者も3月11日に、10万人に達しました。

今後は、この「キトラス」が長崎市・佐世保市・雲仙市ののみならず長崎県全体の産業振興や観光情報の受発信拠点として大きく躍動することを期待しております。

スク軽減が図られます、このように3市共同出店は全国的にも初めての試みであり、広域的な政策という観点からも画期的な取り組みとして耳目を集めました。

早々に佐世保市と雲仙市から其実施に向けた意向が示され、3市でスクラムを組んで出店することに決定し、「佐世保・雲仙長崎アンテナショッピング協議会」が誕生したのが、第14回全国柵田サミットが開催された平成20年10月のことでした。





特集 人ごと桜の香がなつながり  
**炭山の棚田**  
【伊万屋町・吉田町】  
水道をたどる  
湧き水  
農山漁村「みやこ町」  
山田地区の棚田  
日暮つづれ  
棚田と彼岸花  
カランバインウチハ  
シリアルライス  
畠田ミルゼット  
桑原地区的粗田米

いたいと考えています。  
次に、「さが棚田ネットワーク」について紹介します。この取り組みは、棚田保全を目指す県内市町や棚田地域代表者が集まり、全体会議や研修会を実施するものです。他にも、ホームページや広報紙を活用し、県内外へ「佐賀の自然豊かな棚田」や「棚田を活かしたイベント」な

[http://www.pref.sagalg.jp/web/\\_35883.html](http://www.pref.sagalg.jp/web/_35883.html)へなつて、おや。  
そして、広報紙【あぜみち】  
(あが「棚田」だより)では、  
県内の棚田の写真や棚田保全の  
取り組み、多面的機能の説明、  
ふるさと水と土指導員の紹介な  
どを掲載しています。平成20年  
度に発刊し、本年度で3年目にな  
ります。バックナンバーの問

い。 い。 い。

する予定にしています。

最後に、今後の取り組みについてですが、「さが棚田ネットワーク」では、県内の棚田保全活動に興味のある企業ボランティアなどを募集しようと考えています。最初に紹介をしました。「棚田地域保全活動支援事業」と密接に関わりを持たせ、事業を推進していく予定です。4月以来にホームページや広報紙に掲載しますので、興味を持たれた方は是非お問い合わせください。

# 県による棚田保全活動への 支援と情報発信

# 「棚田地域保全活動支援事業」と 「さが棚田ネットワーク」

佐賀県農山漁村課むらづくり事業担当 荒木 勉

佐賀県庁では、棚田保全活動支援と情報発信の2つを組み合せた取り組みを行っています。そのなかで、「棚田地域保全活動支援事業」と「さが棚田ネットワーク」について紹介したいと思います。

佐賀県は、東及び北東は福岡県、西は長崎県に接し、北は玄界灘、南は有明海に面しています。県中央部には東西に筑紫山地が走り、山地の多い玄界灘側と平地の多い有明海側に分かれています。そして南西部には、多良岳山系の山々が連なっています。これら山間地には多くの棚田が分布しており、「日本の棚田百選」にも6地区が認定されています。

で地域の力との交流が豊かになつてよかつたようです。

す。平成22年度は、県中央部に位置する天山（標高1,040m）の西側にある「天川地区（唐津市）」で、佐賀市や福岡市の方々を対象にした農業体験（田植え、稲刈り等）が実施されています。いずれの活動も雨に見舞われたものの、参加者は予定時間を経過しても作業を続けるほど楽しみながら農作業体験を行ってきました。延べ12名と少ない参加人数でしたが、かえって地域の方々との交流が密にな

また「さか樹」田ネットワー  
ク」で運営しているホームページでは、県内23箇所の棚田風景などについての紹介を行つています。「日本の棚田百選」に認定された県内6地区もご覧になれます。

い合わせも多く、来年度も発行する予定にしています。



## 13 The terraced rice field news

## 第5回「東京棚田フェスティバル」を開催

NPO法人棚田ネットワーク 高野光世(個人正会員)

### 2010年度個人会員活動補助報告

「東京棚田フェスティバル」は、「東京で祝う棚田の収穫祭!」をイメージして2006年11月に第1回が開かれました。この年は棚田ネットワーク発足から満10年だったこともあり、会を挙げて取り組み、大きな成功を収めました。その後、秋の恒例行事となり、規模の大小はあっても、都市住民に棚田をアピールする場として、また棚田保存会同士の交流の場として定着しつつあります。

第5回の棚田フェスティバルは、2010年11月12日(金)か

ら13日(土)にかけて、東京・神宮前の地球環境パートナーシッププラザおよび国連大学中庭を会場として開かれました。2日間にわたって開催されるのは初めのことと、東北や四国、九州などの遠隔地も含め、全国20地域から23団体が参加しました。

ちょうど名古屋でCOP10(生

物多様性条約第10回締約国会

(議)が開かれています。同ブ

ラザ内の展示室では約一ヶ月前

から、同プラザと環境省、それ

に棚田ネットワークが共同で、

生物多様性に関する展示と棚田

写真展を行いました。棚田写真

参加を呼びかけたところ、44点

の作品が集まりました。

フェスティバル1日目は正午

に開会。平日だったので、どれ

ほどの客があるか心配したので

すが、予想以上に大勢の方が来

場され、地区によっては持参し

た物産が半分以上売れてしまつ

たところも。「明日売る分がない」と嬉しい悲鳴。

1日目のメイン企画「棚田の

まもりびと車座トーク」。保存

会の代表や棚田ネットのスタッ

フに来場者も交えて、約50人が

ホンネの意見交換です。後継者

は、2010年11月12日(金)か

ら13日(土)にかけて、東京・神

宮前の地球環境パートナーシッ

ププラザおよび国連大学中庭を

会場として開かれました。2日

間にわたって開催されるのは初

めのことと、東北や四国、九

州などの遠隔地も含め、全国20

地域から23団体が参加しました。

ちょうど名古屋でCOP10(生

物多様性条約第10回締約国会

(議)が開かれています。同ブ

ラザ内の展示室では約一ヶ月前

から、同プラザと環境省、それ

に棚田ネットワークが共同で、

生物多様性に関する展示と棚田

写真展を行いました。棚田写真

参加を呼びかけたところ、44点

の作品が集まりました。

フェスティバル1日目は正午

に開会。平日だったので、どれ

ほどの客があるか心配したので

すが、予想以上に大勢の方が来

場され、地区によっては持参し

た物産が半分以上売れてしまつ

たところも。「明日売る分がない」と嬉しい悲鳴。

1日目のメイン企画「棚田の

まもりびと車座トーク」。保存

会の代表や棚田ネットのスタッ

フに来場者も交えて、約50人が

ホンネの意見交換です。後継者

は、2010年11月12日(金)か

ら13日(土)にかけて、東京・神

宮前の地球環境パートナーシッ

ププラザおよび国連大学中庭を

会場として開かれました。2日

間にわたって開催されるのは初

めのことと、東北や四国、九

州などの遠隔地も含め、全国20

地域から23団体が参加しました。

ちょうど名古屋でCOP10(生

物多様性条約第10回締約国会

(議)が開かれています。同ブ

ラザ内の展示室では約一ヶ月前

から、同プラザと環境省、それ

に棚田ネットワークが共同で、

生物多様性に関する展示と棚田

写真展を行いました。棚田写真

参加を呼びかけたところ、44点

の作品が集まりました。

フェスティバル1日目は正午

に開会。平日だったので、どれ

ほどの客があるか心配したので

すが、予想以上に大勢の方が来

場され、地区によっては持参し

た物産が半分以上売れてしまつ

たところも。「明日売る分がない」と嬉しい悲鳴。

1日目のメイン企画「棚田の

まもりびと車座トーク」。保存

会の代表や棚田ネットのスタッ

フに来場者も交えて、約50人が

ホンネの意見交換です。後継者

は、2010年11月12日(金)か

ら13日(土)にかけて、東京・神

宮前の地球環境パートナーシッ

ププラザおよび国連大学中庭を

会場として開かれました。2日

間にわたって開催されるのは初

めのことと、東北や四国、九

州などの遠隔地も含め、全国20

地域から23団体が参加しました。

ちょうど名古屋でCOP10(生

物多様性条約第10回締約国会

(議)が開かれています。同ブ

ラザ内の展示室では約一ヶ月前

から、同プラザと環境省、それ

に棚田ネットワークが共同で、

生物多様性に関する展示と棚田

写真展を行いました。棚田写真

参加を呼びかけたところ、44点

の作品が集まりました。

フェスティバル1日目は正午

に開会。平日だったので、どれ

ほどの客があるか心配したので

すが、予想以上に大勢の方が来

場され、地区によっては持参し

た物産が半分以上売れてしまつ

たところも。「明日売る分がない」と嬉しい悲鳴。

1日目のメイン企画「棚田の

まもりびと車座トーク」。保存

会の代表や棚田ネットのスタッ

フに来場者も交えて、約50人が

ホンネの意見交換です。後継者

は、2010年11月12日(金)か

ら13日(土)にかけて、東京・神

宮前の地球環境パートナーシッ

ププラザおよび国連大学中庭を

会場として開かれました。2日

間にわたって開催されるのは初

めのことと、東北や四国、九

州などの遠隔地も含め、全国20

地域から23団体が参加しました。

ちょうど名古屋でCOP10(生

物多様性条約第10回締約国会

(議)が開かれています。同ブ

ラザ内の展示室では約一ヶ月前

から、同プラザと環境省、それ

に棚田ネットワークが共同で、

生物多様性に関する展示と棚田

写真展を行いました。棚田写真

参加を呼びかけたところ、44点

の作品が集まりました。

フェスティバル1日目は正午

に開会。平日だったので、どれ

ほどの客があるか心配したので

すが、予想以上に大勢の方が来

場され、地区によっては持参し

た物産が半分以上売れてしまつ

たところも。「明日売る分がない」と嬉しい悲鳴。

1日目のメイン企画「棚田の

まもりびと車座トーク」。保存

会の代表や棚田ネットのスタッ

フに来場者も交えて、約50人が

ホンネの意見交換です。後継者

は、2010年11月12日(金)か

ら13日(土)にかけて、東京・神

宮前の地球環境パートナーシッ

ププラザおよび国連大学中庭を

会場として開かれました。2日

間にわたって開催されるのは初

めのことと、東北や四国、九

州などの遠隔地も含め、全国20

地域から23団体が参加しました。

ちょうど名古屋でCOP10(生

物多様性条約第10回締約国会

(議)が開かれています。同ブ

ラザ内の展示室では約一ヶ月前

から、同プラザと環境省、それ

に棚田ネットワークが共同で、

生物多様性に関する展示と棚田

写真展を行いました。棚田写真

参加を呼びかけたところ、44点

の作品が集まりました。

フェスティバル1日目は正午

に開会。平日だったので、どれ

ほどの客があるか心配したので

すが、予想以上に大勢の方が来

場され、地区によっては持参し

た物産が半分以上売れてしまつ

たところも。「明日売る分がない」と嬉しい悲鳴。

1日目のメイン企画「棚田の

まもりびと車座トーク」。保存

会の代表や棚田ネットのスタッ

フに来場者も交えて、約50人が

ホンネの意見交換です。後継者

は、2010年11月12日(金)か

ら13日(土)にかけて、東京・神

宮前の地球環境パートナーシッ

ププラザおよび国連大学中庭を

会場として開かれました。2日

間にわたって開催されるのは初

めのことと、東北や四国、九

州などの遠隔地も含め、全国20

地域から23団体が参加しました。

ちょうど名古屋でCOP10(生

物多様性条約第10回締約国会

(議)が開かれています。同ブ

ラザ内の展示室では約一ヶ月前

から、同プラザと環境省、それ

に棚田ネットワークが共同で、

生物多様性に関する展示と棚田

写真展を行いました。棚田写真

参加を呼びかけたところ、44点

の作品が集まりました。

フェスティバル1日目は正午

に開会。平日だったので、どれ

ほどの客があるか心配したので

すが、予想以上に大勢の方が来

場され、地区によっては持参し

た物産が半分以上売れてしまつ

たところも。「明日売る分がない」と嬉しい悲鳴。

1日目のメイン企画「棚田の

まもりびと車座トーク」。保存

会の代表や棚田ネットのスタッ

フに来場者も交えて、約50人が

ホンネの意見交換です。後継者

は、2010年11月12日(金)か

ら13日(土)にかけて、東京・神

宮前の地球環境パートナーシッ

ププラザおよび国連大学中庭を

会場として開かれました。2日

間にわたって開催されるのは初

めのことと、東北や四国、九

州などの遠隔地も含め、全国20

地域から23団体が参加しました。

ちょうど名古屋でCOP10(生

物多様性条約第10回締約国会

(議)が開かれています。同ブ

ラザ内の展示室では約一ヶ月前

から、同プラザと環境省、それ

に棚田ネットワークが共同で、

生物多様性に関する展示と棚田

写真展を行いました。棚田写真

参加を呼びかけたところ、44点

の作品が集まりました。

フェスティバル1日目は正午

に開会。平日だったので、どれ

ほどの客があるか心配したので

すが、予想以上に大勢の方が来

場され、地区によっては持参し

た物産が半分以上売れてしまつ

たところも。「明日売る分がない」と嬉しい悲鳴。

1日目のメイン企画「棚田の

まもりびと車座トーク」。保存

会の代表や棚田ネットのスタッ

フに来場者も交えて、約50人が

## 中山間地域に対する各種法制度等の要望

平素より、中山間地域の農業・農村の振興について、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

私たちの棚田では、生産者の棚田を守り受け継ぐ強い決意と努力、そして多くの支えてくれる人々の励ましと協力により、毎年見事に黄金色の穂穂を実らせてくれています。

この棚田が見せる曲線美や四季折々の美しさは、日本の原風景として長い間、人々の心に潤いとやすらぎを与えてきました。

一方、棚田を守ろうとする農山村にも生産効率重視の風潮に加え、高齢化の進行や担い手不足という荒波が押し寄せ、荒廃農地は増加の一途をたどり、棚田を取り巻く環境は、益々厳しさを増しております。

しかし、良好な棚田景観には国土を守り、水源のかん養や生態系の保全など棚田が持つ多面的な機能があり、こうした地域の自然条件に調和した棚田の果たす大きな役割が次第に評価され、ボランティア等による保全活動や、新たな利活用に向けた取組みが模索されています。

つきましては、中山間地域における耕作放棄地の未然防止と多面的機能の高揚、併せて集落機能の活性化を図るために、下記の要望事項について格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 中山間地域等直接支払制度の恒久化・法制化
2. 農地・水・環境保全向上対策の継続
3. TPP（環太平洋連携協定）交渉への不参加

全国棚田（千枚田）連絡協議会  
会長 新潟県十日町市長 関口芳史  
役員一同



## 事務局 ニュース

事務局、新潟県十日町市からのお知らせコーナーです。

## 中山間地域に対する各種法制度等の要望書を提出

平成23年2月3日、全国棚田

（千枚田）連絡協議会の会長（新

潟県十日町市長関口芳史）、副会

長（静岡県松崎町長齋藤文彦）、

中島峰広理事を中心

域に対する各種法制度等（1、中

山間地域等直接支払制度の恒久

化・法制化

2、農地・水・環境

保全向上対策の継続

3、TPP

（環太平洋連携協定）交渉への不

参加）の要望を、筒井信隆農林水

産副大臣と篠原孝農林水産副大臣

に面会し、直接両副大臣に訴えて

まいりました。

今回要望した3項目は、いずれ

も中山間地域の農業、農村集落の

要望書を提出

いたしました。

筒井信隆農林水産副大臣へ

提出・存続に関わる重要な課題で

す。

棚田は、国土を守り、水源のか

ん養や生態系の保全などの多面的

機能があり、現在、こうした地域

の自然条件に調和した、棚田の果

たす大きな役割が次第に評価され、

ボランティア等による保全活動や、

新たな利活用に向けた取組みが全

国的に模索されており

ます。

今後も、中山間地域における耕

作放棄地の未然防止と多面的機能

の高揚、併せて集落機能の活性化

を図るために、棚田保全活動の必

要性を訴えてまいります。

今回要望した3項目は、いずれも中山間地域の農業、農村集落の要望書を提出いたしました。

筒井信隆農林水産副大臣へ

提出・存続に関わる重要な課題で

す。

棚田は、国土を守り、水源のか

ん養や生態系の保全などの多面的

機能があり、現在、こうした地域

の自然条件に調和した、棚田の果

たす大きな役割が次第に評価され、

ボランティア等による保全活動や、

新たな利活用に向けた取組みが全

国的に模索されており

ます。

今後も、中山間地域における耕

作放棄地の未然防止と多面的機能

の高揚、併せて集落機能の活性化

を図るために、棚田保全活動の必

要性を訴えてまいります。

## Topics 始まる 「棚田検定」 ウェブで挑戦！

編集後記

3月11日（金）、東北関東大震災が起きました。あまりの被害の甚大きさに大きなショックを受けています。福島の原子力発電所でも事故が起き、日本中のみなさんが大きな不安のなかにいることがあります。家族や親類、お友だちが被害にあった方もいらっしゃるかと思います。報道はどれも生々しく、白煙をたてながら人々を飲み込んでいく大津波や、美しく手の入れられた田畑を、瓦礫と化した家や車がものすごい勢いで覆い尽くしていくさまは、映像ながらも一生脳裏に焼き付いて離れないことだと思います。また、東北関東以外の長野県や新潟県などでも地震被害が出ています。数々の災害を乗り越えてきた日本人。どうぞみんなで力をあわせて乗り越えていきますように……。いまは何をしてよいのかもわからず、節電や募金といったことばかりですが、何か協力できること等ございましたらお声掛けください。みなさまのご無事と1日も早い復旧・復興、そして亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げ、今号の編集後記とさせていただきます。 石井里津子（3/15記）

## 会員募集中

新しく会員になったみなさま

<団体正会員>

株式会社 気象サービス（東京都）

\*「伊勢海老の真実」：前号56号p12のなかで、松崎町サミットの棚田巡りで振る舞われた伊勢海老の数が「2300匹（!?）」とあったのを読まれましたか？ 地元の人から聞いた数のことですが、役場担当者、山本公さんが調べてくれました。「調達したのは20kg。1匹150gとしても1kg6~7匹で140匹位でしょうか」とのこと。やはり実真是???です。

# 第17回 全国棚田(千枚田) サミットは徳島県上勝町で!!

開催日：平成23年10月28日(金)～29日(土)

テーマ：緑の階段～みんなで守ろう日本の棚田～

四国での全国棚田(千枚田)サミット開催は、平成7年の第1回目、高知県梼原町以来。徳島県上勝町は、四国山脈の東面山地に位置し、山岳が重なり合った美しい連山のなかにあります。人口は1935人、高齢化率49.30%(平成23年2月1日現在)の四国で一番小さな町です。

## 【開催目的】

- 上勝町棚田サミットは、全国の棚田地域の直面する問題解決、元気づくりのために開催します。
- 上勝町棚田サミットは、上勝町における棚田資源を適正に保全し活用することで、持続的かつ魅力的な、景観保持に配慮した地域づくりに寄与するために開催します。

## ＜開催プログラム予定＞

(平成23年3月現在)

前 日 10 月 28 日 (金)	時 間	内 容
	17:30~18:30 19:00~21:00	全国棚田連絡協議会理事会 情報交換会
10月28日(金)	8:30~9:30 10:00~10:10 10:10~10:30 10:30~10:50 10:50~11:50 11:50~12:05 12:05~13:00 13:00~14:00 14:00~16:30	全国棚田連絡協議会総会 オープニング 上勝小学校の合唱 開会式 上勝町棚田の紹介ビデオ放映 基調講演 上勝町の取り組み報告:上勝小学校 昼 食 分科会会場への移動 分科会 ①棚田の保全「鳥獣害からの棚田を守る」 ②棚田の価値「景観、歴史、生業、空間等の価値を学ぶ」 ③棚田の活用「棚田資源を活用したツーリズム、オーナー制、古民家活用等について学ぶ」 首長会議「担い手の育成確保」 徳島大学主催分科会 ④棚田と酒「酒づくりを介した主体的、継続的な棚田保全活動を学ぶ」 18:00~19:30 全体交流会
10月29日(土)	9:00~10:00 10:00~11:30 11:30~12:30 12:30~13:30 13:30~13:45 13:45~14:30	現地案内箇所へ移動 現地案内(八重地地区／市宇地区／檍原地区／田野々地区) 閉会式会場へ移動 昼 食 分科会のまとめ 閉会式
10月30日(日) オプションツアーの開催		

写真上:檍原地区  
写真下:八重地地区



## 問い合わせ先

第17回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会<事務局:上勝町役場 産業課内>

〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町大字福原字下横峯3番地1

電話:0885-46-0111 FAX:0885-46-0323

上勝町HP:<http://www.kamikatsu.jp/>